

赤十字ボランティアのための情報誌

R C V Red Cross Volunteer No.68

特集1 「地域とボランティア」
特集2 「海外たすけあい2017」



「ここにきたら元気になるよ。
仲間もいるし本当に幸せ。ありがたいね！」

地域の高齢者を笑顔にする、
日立市赤十字奉仕団の
ふれあい健康クラブを特集します！

地域とボランティア

国民の100人に1人が活躍！？地元を見守る地域赤十字奉仕団の取り組み

取材に協力いただいた
日立市赤十字奉仕団の
みなさま



赤十字ボランティアといえば、災害時の救護活動、活動資金の協力依頼、献血推進、高齢者支援と多岐にわたっています。大きな災害が起こったときの活動が注目されがちですが、普段から地域の安全、健康を支えるために活動しています。中でも地域奉仕団と呼ばれる各地区・分区ごとに組織される赤十字ボランティアは、高齢者支援や地域防災など、地域の強みを生かして活動する、最も身近なボランティアです。今回の特集では、日立市赤十字奉仕団（茨城県）の「ふれあい健康クラブ」という活動取材しました。

「いらっしゃい！」「高橋さん、元気だった？」そんな団員の明るい声かけから、ふれあい健康クラブは始まります。同クラブでは、月2回地区の交流センターで、社会福祉協議会の看護師・指導員と赤十字奉仕団員が、地域の高齢者を対象に、健康チェック、体操、レクリエーションを行っています。進行は、社会福祉協議会の指導員が行い、団員と一緒に参加して場を盛り上げつつ、参加者一人ひとりの安全を注意深く見守ります。

最初に、指先体操や日常生活の中で足を滑らせないための運動、テレビを見ながらできる運動などで体を慣らし、続くレクリエーションでは、「ディスコン」というカーリングに似たゲームで盛り上がりました。笑いの絶えない会場の雰囲気から、団員の皆さんが、「一緒になって楽しむこと」を大切にされていることが伝わってきます。最後にお茶とお菓子で一息つく談話の時間が設けられ、振り込め詐欺や、お餅を食べる際の注意喚起なども行われました。技術的なことは指導員、おもてなしや見守りは奉仕団、それぞれの得意分野を生かしたチームワークが光る活動でした。



ディスコンってこんなゲーム♪



ディスコンのディスクと的(まど) 青と赤の2チームで対戦します。



床を滑らせるように投球。ナイスショットが連発しました！



最後に床に貼られた的に最も近かったチームが勝ちます。



勝敗は2-0。勝利し、喜ぶチームのみなさん。

9:30
看護師による健康チェック

10:10
参加者が集まり「ふれあい健康クラブ」開始
最初は、手や足を使った運動から。

11:00
レクリエーション

11:20
参加者とお茶を飲みながら、おしゃべり

11:50
解散

市報を読んでサロンを知り参加しました。サロンで色々とお話の中で、健康について考えるようになりました。ここに来ると仲間がいて楽しいです。



いつもボランティアさんが「よく来たね」と迎えてくれます。私は1人暮らしなので、畑仕事も何でも自分でやっています。応援してもらえるから救われますし、ここでできた友人にも支えられています。

日立市赤十字奉仕団インタビュ SOSに即対応できる奉仕団をめざして

日立市赤十字奉仕団の岩瀬委員長、団員の佐藤さん、後藤さんにインタビューしました。以下敬称略。

「ボランティアを始めたきっかけを教えてください。」

引越してきて知り合いがいなかったの、女性会（日立市赤十字奉仕団の前身）に入って、そのまま今日まで続きました。（岩瀬）

子供が成長してなにかやろうと思ったためです。（佐藤）

福祉関係の仕事をしていたとき奉仕団にお誘いを受け、仕事を辞めてから、始めることにしました。（後藤）

地域との繋がりを深める

「地域の方々との関わり方について」

奉仕団として地域のコミュニティ推進委員会の中に加わり、一緒に活動することになっています。奉仕団を前面にだして活動するのは防災訓練のときです。

「炊き出しおしいかったよ」と声をかけていたなど、赤十字と地域の方々のつながりを感じるができます。災害時など何かあった時に「知らない人が手伝いに来た」ではなく、「赤十字のボランティアが来た」と思ってもらえるように、地域の人々と繋がりを深めておきたいと思っています。

「他団体の活動にも積極的に参加されていると聞きました。以前からそうだったのですか？」

2年前の市町合併（十王町と旧日立市）でコミュニティ推進委員会が発足。私（岩瀬）が副代表を務め、地域の情報を得やすくなりました。このつながりで、今日見てもらったふれあい健康クラブや子ども食堂といった活動に声をかけていたくようになりました。

楽しむことを一番に

「活動を続ける上で心がけていることはありますか？」

ボランティア活動を楽しもうとすることが大事だと思います。自分も楽しむことが一番。やっている人が笑顔であれば楽しそうだからと人が集まってくれます。楽しかったという人が増えれば、人の輪も広がっていきます。

「個人の意思で手伝う」ことをモットーとしているため、誰かがまとめ役になって団員を率いる、という雰囲気はあまりありません。みんなが自主的に楽しく無理をしないでやっていけることが大切だと考えています。ふれあい健康クラブも、団として協力しているのではなく、団の有志に参加してもらおうという形を取っています。

「ふれあい健康クラブの参加者からの言葉で嬉しかったことはありますか」

「今日は楽しかったよ」と言ってもらったり、「頑張ったね」と言い合えることが嬉しいです。参加者も団員も楽しく過ごせるのが一番。みなさんには笑顔で帰っていただきたいですね。最初は、硬い表情の参加者もいましたが、今では和気藹々とやっています。一人でも暗い顔をしている人のないようにしたいです。

「活動中、気をつけていることはありますか？」

ふれあい健康クラブの活動中は、怪我をしてほしくないのが、冗談を言い合いながらも参加者からは目を離さないようにしています。活動中は事故がないように細やかな気遣いを忘れないようにしています。

頼りになる存在へ

「地域の方々にとってどのような存在でありたいか」

SOSがあった時に即対応できることを目指しています。何かあった時に、思い浮かぶ存在でありたいですね。赤十字のボランティアなら安心して頼めると思ってもらいたいです。



今後、奉仕団としての活動にこだわらず、地域の色々なことをお手伝いする中で、赤十字奉仕団の存在をPRしていきたいです。



「活動をやっていて大変なことはありますか」

団員の高齢化です。若い人が少なく、後継者がいないので、今のまま活動が維持できるか心配です。

「こちらの奉仕団では、団員が女性だけです。男性団員は必要でしょうか」

男性団員も募集はしているものの、メンバーが全員女性であるために入団してもらうのは難しいようです。婦人会が前身ということもあり、奉仕団Ⅱ女性のイメージがあるようです。男性に活動に参加していただくことで、より活動がスムーズに、うまくいくことがたくさんあると思いますので、ぜひ入団していただきたいです。

「若い方との連携について」

JRC（青少年赤十字）と一緒に活動したいです。合併前に十王町単体で活動していたときは、地元の小学生と救急法と一緒に学んだりしていました。将来、団の活動に参加しようと思ってもらうためにも、また一緒に活動する機会をつくりたいです。

海外たすけあい2017

海外たすけあいとは、日本赤十字社がNHKと共同で、紛争や自然災害、飢餓、病気などで苦しんでいる世界の人々を救うために実施している募金キャンペーンのことです。毎年12月1日～12月25日に、ボランティア・職員を挙げて、募金活動や広報活動に取り組んでいます。

今年で35年になる海外たすけあいですが、寄せられた募金はどのように使われ、どのような国に届けられているのでしょうか？また、全国各地では、どのようなキャンペーンをしているのでしょうか？

今回の特集では、海外たすけあい担当職員に直撃したインタビューをはじめ、同キャンペーンの認知度が低いといわれる若年層を巻き込んだ取り組みをご紹介します。

＼ いまさらだけど聞いておきたい /

海外たすけあいが面白くなる10の質問

海外たすけあい担当の日本赤十字社 国際部職員 貝淵さんにインタビューをしました。

Q1 どんな活動をしているの？

日赤は本社・支部・施設があり、それぞれが募金や広報など、海外たすけあいの活動を展開しています。本社では、10月に赤十字シンポジウム(*1)の開催等を通じて、海外たすけあいの宣伝しています。

Q2 募金の使途は？

- ①紛争で苦しむ人への支援
(例)難民に対する水や衣類など
基本的な生活物資の支援
- ②災害で苦しむ人への支援
(例)倒壊した建物の修復作業、生活
再建に必要な資材の配布
- ③病気で苦しむ人への支援
(例)手洗いの知識普及、予防接種
などに使われています。

Q3 募金の送り先は？

世界155の国と地域です。金額で見ると中東への支援額が1番多いです。主にイラクやシリアなど、紛争下の国に送られることが多いです。

Q4 何人くらいで活動しているの？

現場で支援する人、募金を集める人など様々な形で多くの人が関わっています。そういった意味では職員・全世界のボランティア
約1700万人と
言えます。



Q5 海外たすけあいをやっていて達成感はある？

同じ赤十字でも病院や施設等、国内向けの活動を主としている所にとって国際の話は遠い話になりがちです。そういう職員に関心を持ってもらえたとき、達成感を感じます。また、ボランティアさんと一緒に、街頭募金をした際に「こういう活動に関われて嬉しい」と言ってもらえたのが嬉しかったです！

赤十字の広報誌でも海外たすけあいを特集しました！



Q7 海外たすけあいのこれからの目標は？

このキャンペーンを通じて赤十字の国際活動に関心を持つ人を増やすことです。そして、募金額が増えているといいな、と思っています。

Q6 海外たすけあいをやっていてつらいことは？

難しいのは「歳末たすけあい(*2)」と混同されがちなことです。正しく理解されないと寄付も集まりにくいと感じます。また、若者の認知度が低いのでSNSを活用した広報を展開していますが、苦戦しています。なかなかバズらないので…

Q8 どんな思いを大切にしているの？

現地のことを知り、正しく伝えるために常に勉強することを心掛けています。学生時代に教わった“Study hard keep on smiling”という言葉を中心に留め、笑顔が心がけてます。

Q9 このお仕事をやろうと思ったきっかけは？

昔から、誰かの助けになるような仕事がしたいと思っていました。赤十字で働くことで、医師や看護師など、直接誰かを助けている人を支える仕事が出来ると思いました。



Q10 最後に、読者にメッセージ！

海外たすけあいに関わったことをきっかけに、海外に興味を持ってもらえたら嬉しいです。世界で起こっていることを知ることで、支援を必要としている人が数多くいることに気付くきっかけにしてもらえたら、と思います！

*1：NHK海外たすけあいキャンペーンの一環として、紛争などをテーマに国内外の専門家・著名人などをパネリストに迎えて開催するイベント。

*2：共同募金の一環として、中央共同募金会がNHKとの共同で行う助け合い運動です。寄付金は共同募金会を通じ、国内の福祉活動に役立てられます。

若年層を巻き込んだ海外たすけあいの取り組み

～心が折れたけど頑張った!!～

石川県

12月10日、石川県の青少年赤十字・ユースメンバーは、海外たすけあいの勉強会を開催。国際情勢について理解を深めたあと、街頭募金に臨みました。



募金に協力してくれる人がなかなかなくて、心が折れそうになりました。そんな中でも自分と同じ世代の若者が募金をしてくれてうれしかったです。

金沢星稜大学学生赤十字奉仕団
米田さん



Ishikawa JRC/Youth

赤十字の国際活動についてみんなで学びました♪



～同時多発募金!??～

山口県

12月5日、山口県では、山口県立大学、山口大学、徳山大学の3大学がそれぞれのキャンパス内でお昼休み時間に、同日同時時間帯に募金の呼びかけを行うという「同時多発募金」をおこないました!

私たち山口県立大学学生奉仕団は、平成29年に結成しました。今回、一緒に募金活動する仲間を増やすことを目的とした説明会を学内で実施したところ、有志の学生4名の協力を得ることができました。初めての海外たすけあいキャンペーンで無事成功をおさめることができ、来年のモチベーションに繋がりました!

山口県立大学学生赤十字奉仕団
作間さん

Yamaguchi Pref. University

Yamaguchi University



Tokuyama University

Q.この数字何だかわかりますか?

♡ 598

正解は2017年、海外たすけあいInstagramの総いいね!数です。海外たすけあいでは、昨年若者に人気のInstagramを利用して、若年層に認知を広げる取り組みを行っています。2017年は全国の47都道府県支部中24支部のユースが参加しました。まだ参加したことのない皆さんも、来年は参加してみたいかがでしょうか?ひとりでも多くの人を救うためにも海外たすけあいをもっと盛り上げましょう!

編集委員菊地が選ぶ! Instagramベストショット!!



長崎市の青少年赤十字メンバー
(12月4日投稿)



青年赤十字奉仕団香川県支部
連絡協議会 (12月5日投稿)



広島学生赤十字奉仕団
(12月4日投稿)

その他の投稿も
Instagramで検索



kaigai_tasukeai

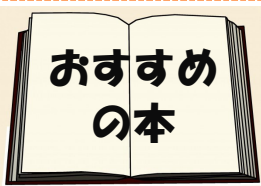
編集後記

国際部の貝淵さんにインタビューをして海外たすけあいの大切さを学び、もっと多くの方々に海外たすけあいを広めたいと強く思いました。RCVが海外たすけあいについて知るきっかけになりましたら幸いです。

(明治学院大学 菊池絢菜)

ふれあい健康クラブの取材に参加させていただき、みなさんが笑顔で、楽しく活動されている姿を見ていると、こちらも楽しくなってきました。また、海外たすけあいに関する本の紹介を書かせていただきました。世界の貧困問題など今起きていることがわかる1冊なのでぜひ多くの方に読んでいただけたらと思います。

(日本大学 鈴木啓太)



海外たすけあいにちなんだ書籍を紹介！

『国際協力の現場から 開発にたずさわる若き専門家たち』

山本一巳・山形辰史編 (2007年 岩波ジュニア新書)

いま世界では1億3,000万人もの人びとが紛争や自然災害、飢餓、病気などで、命の危機に直面しています。同時に、世界の多くの人々が、さまざまな立場から、こうした問題を解決するための努力を続けています。

ここで紹介する、『国際協力の現場から 開発にたずさわる若き専門家たち』は、様々な国際援助団体で活躍している専門家たちが、貧困、紛争、難民といったテーマ別に、「問題の背景」と「解決のための取り組み」を各テーマ15ページ前後で紹介しており、世界で起こっていることを知る入門書としてオススメです。

また、この本は、「海外たすけあい」で支援をしている人々の状況をより具体的に思い描く助けにもなります。助けを必要としている人たちの苦しみを理解し、どのような支援ができるかを考えるためにも、ぜひ手に取っていただきたい一冊です。



赤十字ボランティアへの参加、登録についてのお問い合わせ

日本赤十字社の活動は、全国のボランティアによって支えられています。あなたも、“苦しんでいる人を救いたい”という思いを行動に移してみませんか？

赤十字ボランティアへの参加は日本赤十字社各都道府県支部・施設で受け付けています。

WEBページで

日本赤十字社

検索

<http://www.jrc.or.jp/volunteer>



FacebookやTwitterでも逐次情報を更新しています！



○編集・発行

事業局 パートナーシップ推進部 ボランティア活動推進室 青少年・ボランティア課

電話：03-3437-7083(ダイヤルイン) ホームページ：<http://www.jrc.or.jp>